

2017年度 札幌創価幼稚園 学校教育目標 評価報告

2018/8/01

◇ 教育基本方針・自己評価の概要

創価学園創立50周年の佳節を迎えた2017年度、本園は開園42年目となった。教育課程の基本理念に「世界市民として未来社会に貢献する人格の形成を目指す」を掲げて、幼児に寄り添う豊かな保育に専心してきた。ここに、年度総括を自己評価として以下の通り行った。また、2月には卒園生組織代表、地域支援する会代表、保護者会代表を迎え学校関係者評価を実施した。7月には、幼児教育専攻学術者、公立小学校校長経験者、弁護士、児童委員・民生委員を迎えて第三者評価委員会を開催し、貴重なお意見を頂いた。今後、開園45年を目指し、更なる教育貢献を期すものである。

〔Ⅰ〕教育方針

1. 心身共に健康で基本的生活習慣を身につける。
2. 一人ひとりの個性を大切にし、人間性豊かな創造力を育てる。
3. 正しいことは勇気をもってやり抜く実行力を育てる。
4. 思いやりをもってだれとでもなかよく遊べるよう育てる。
5. 未来社会に貢献する人格の形成を目指す。

〔Ⅱ〕教育目標

1. 明るく丈夫な 太陽の子 (勇 気)
2. よく考えて行動する 太陽の子 (智 恵)
3. 仲良く遊ぶ 太陽の子 (慈 愛)

〔Ⅲ〕モットー 「 つよく ただしく のびのびと 」

〔Ⅳ〕世界の創価幼稚園「3つの指針」

何があっても 負けない人が 幸福な人
みんな仲良く 僕たち家族
父母を 大切に作る人が 偉い人になる

◇ 教育活動・実践における重点10項目の自己評価

〔Ⅰ〕創価教育「最初の門」に相応しい3年保育内容の充実

1. 学園3大記念週間の取り組みによる心の育成 [4. 7]
2. 創立者著作の創作童話を未来っ子祭りオペレッタとする取り組みの充実 [4. 8]
3. モットー、3つの指針、入園メッセージを学年に応じて保育実践に展開 [4. 6]

入園メッセージをどう教育課程や日々の保育に深化定着させるか教員間で検討し合い、豊かな取り組みができた。子ども達から歌詞を聞き取り教員で作詞・作曲した新愛唱歌をつくり、よりメッセージの内容を分かりやすく心に刻む実践を展開した。記念週間では各学年の成長にあわせて目標や取り組みを工夫し子ども達の達成感がみられた。創立精神の学びは様々な行事・保育活動への展開が進み、学年毎の特色もよりの明確になった。年長での創立者著作の創作童話を未来っ子祭りオペレッタとする取り組みも、卒園するまでの年間の取り組みとなっている。世界の創価幼稚園「3つの指針」へのアプローチを充実させていきたい。

〔Ⅱ〕 未来を創る教育課程（カリキュラム・マネジメント）の推進

1. 3歳児教育2年目としての実践的財産を共有し積み上げる [4. 2]
2. 新入園年中児と進級年中児へのきめ細やかな保育実践を積み重ねる [4. 3]
3. 卒園までに育ててほしい「10の姿」を具体的に育む教育課程作成推進 [3. 9]
4. 「子どもの主体的な遊びや活動を通しての学び」を育む保育実践を探求 [3. 9]
5. 共通時間帯・なかよしタイム（縦割・学年タイム）の実践的財産を共有し積み上げる [4. 3]
6. 各種行事再編成と現行の保育内容の精選を推進 [3. 7]

なかよしタイムでの他クラスや他学年の交流が深まり、仲良く遊ぶ姿がみられた。「ドリームランドつくっちゃお！」の取り組みを通し一緒に活動する喜びがみられ、目的をもった制作活動の充実となった。また、廃品を自由に使い主体的に創意工夫して遊ぶ姿が多くみられた。「10の姿」と創価幼稚園としての具体的保育のあり方について研鑽・検証を開始。更に日常の保育や子どもの姿と皆で深めたい。2年目となる3年保育実践の積み重ねが、進んだ。年少教育課程を学年を超えての共有が課題。また、進級年中と新入園年中の具体的な保育の進め方を検討したい。行事・保育内容の精選は更に皆で推進していく。

〔Ⅲ〕 世界に開かれた心を育む幼児教育の充実

1. 海外幼稚園・姉妹校交流・創大生創価幼稚園訪問団との交流の充実 [4. 8]
2. グローバルタイムの充実／海外からの来園者との交流推進 [4. 7]
3. 専門講師によるインターナショナルタイムと日常保育の連動 [4. 0]
4. 楽器を通じた情操教育の更なる充実 [4. 2]
5. 体操教室を軸に年間を通じた基礎的な体力向上の取り組み推進 [4. 1]
6. 保育教材・お弁当・給食指導を通しての食育指導の充実（キャラクターを活かし） [4. 1]
7. 自然環境教育の推進（池田自然広場・ど根性ひまわりを通して） [3. 9]
8. 伸びやかな絵画制作と創造性育む制作活動や遊び（魔法の砂等）の推進 [3. 9]

韓国幸福幼稚園、香港創価幼稚園教職員団の来園が、世界への意識を高める豊かな経験となった。来園交流が事前学習等、日常のグローバルタイムへの興味関心の高まりになった。海外姉妹園との教員交流は、園児だけでなく教員の心に残る豊かな学びともなった。カード交流だけでなく、今後は園児の動画交流も推進していきたい。食育キャラクター「おいしーぷ」を通しての食育は定着してきた。また、年少のネイチャーゲーム「フィールドビンゴ」では季節の自然物への興味関心が高まった。年長児の鉄棒や縄跳びへの取組を充実させたい。年少児の打楽器演奏や年長児のメロディオン演奏への取り組みについて、より充実したものになるよう3年間カリキュラムを検討していきたい。

〔Ⅳ〕 豊かな心を育む絵本教育の充実

1. 太陽の子ライブラリーの充実と絵本環境の充実 [4. 1]
2. 「豊かな心を育む物語・絵本から広がる保育」の深化と具体事例拡充 [4. 2]
3. 創立者の創作童話や創作物語「ざくろの詩」の読み聞かせや総合的展開の充実 [4. 2]
4. 創立精神や自然教育、世界への心を育む創作教材（紙芝居等）を作成 [3. 8]

質の高い絵本への研修を重ね、「絵本から広がる保育」の実践的広がりが更になされた。絵本から広がる保育研究を通し子ども達の生き生きとした活動や教員達の喜びの姿があった。通園バスでの読み聞かせを実施し、とても好評。担任以外の教員に読んでもらえている喜びも重なった。年長で読み聞かせている「ざくろの詩」を分かりやすく年中にも展開していきたい。また、太陽の子ライブラリーの豊かな活用を模索したい。ひつじっこクラブの集合場所として絵本の読み聞かせができたことは新たな取り組みとなった。紙芝居の点検・補修、紙芝居棚の見直しと整理を年間かけて推進できた。次年度は、世界へ目を向ける作品や学園各校・海外姉妹園を紹介する作品他、創作紙芝居制作を実施したい。

〔V〕 「安心・安全」教育・施策の充実

1. 通園バス無事故運行と「れんらくアプリ」の更なる充実 [4. 3]
2. 園児バス乗車時想定訓練の実施（バス事故・車内嘔吐等への教員実地訓練） [4. 8]
3. 園舎内外・通園バスにおける冬季安全策の充実 [4. 5]
4. 自然災害や防犯を想定した総合的な防災安全計画・防災教育の充実 [4. 5]
5. 健やかな心身を育成する屋内遊具の充実・年齢に即した屋外遊具安全性の向上 [4. 3]

れんらくアプリの有用性は高い。バス運行現在位置告知だけでなく、常時、保護者からの連絡発信が可能となり、園側としても朝の混乱回避が出来て業務軽減に繋がっている。誤作動を無くしたい。月例で実施してきた防災訓練はより充実出来た。3才児への予告無し訓練だけでなく、教職員への事前指示のない態勢等含め、地道な防災訓練が重ねられた。バス乗車中の緊急対応の教職員（含む：運転手）実地訓練（非常口避難・車内嘔吐対応）ができた。安全なバス運行について全関係者で更にスキルアップしていきたい。防犯を想定した総合的な防災安全教室を警備員とも連携し充実させたい。

〔VI〕 寄り添い伸ばす個別支援教育の充実

1. 家庭訪問・個人面談・子育て相談等で保護者との共育推進 [4. 7]
2. ケースカンファレンスを軸にした情報・目標共有によりチームとしての育成推進 [4. 4]
3. 訪問支援員を軸にしたデイケア・専門機関への円滑な連携 [4. 3]
4. 特別支援研修会への年間5名派遣と研鑽成果の園内共有の推進 [4. 5]

園生活や子育てについて、担任と保護者間の信頼に裏付けられた面談成果は大きかった。ケースカンファレンスを多く実施できたことで、よりチームとしての取り組みとなった。課題場面の共有だけでなく喜び（育ち）の内容も細やかに豊かに情報共有を充実させたい。訪問支援員との連携が回を重ねることでスムーズになり、保護者への伝えやすくなった。訪問支援員との連携が回を重ねることでスムーズになり、保護者との共有もよりしやすくなった。個別支援研修等への積極的な受講ができており、教員一人ひとりが活かされていると感じる。参加教員から他教員への園内研修の機会充実を推進したい。

〔Ⅶ〕 就学連携・卒園生支援の充実

1. 幼保小連携推進協議会・各種デイケア機関を軸とした就学連携の充実 [4. 4]
2. 就学前の「学びの姿」を育成する保育実践の積み重ね [4. 1]
3. 東西創価小学校への教員研修で、就学時子ども像を多角的に研鑽 [4. 6]
4. 年長児保護者対象の就学前保護者講座の開催 [4. 1]
5. 卒園生大会の充実（小1おとぎ会の開催、高3クラス会実施への支援） [4. 8]
6. 学園・創価大の案内と進学推進 [4. 1]

地元密着型の幼稚園と本園は異なるが、幼保小連絡協議会だけでなく地元小学校への代表教員参観も開始された。より多くの教員の参加機会を充実させたい。年長児保護者対象の就学前保護者講座とはならなかったが、札幌市公立小の元校長であり、子育てセミナー講師を迎え教育講座を開催できた。東西の創価小への教員研修派遣だけでなく、学園音楽祭への研修派遣も実施でき、創価の幼児教育への研鑽となった。

初めて5月におとぎ会（小1親子懇談会）を開催し、子ども達と保護者の大きな喜びとなった。保護者懇談もこの時期ならでは内容にもなり時間が足りない程だった。子どもには交流遊びの時間を作ることで充実した内容となった。高3生への支援充実が課題である。

〔Ⅷ〕 豊かな幼児期を支える子育て支援の充実

1. 3歳児就園前教室の拡充 [4. 8]
（きめ細やかな少人数開催、在園児との交流推進、連続性豊かに約30回を実施）
2. 延長保育「ひつじっこクラブ」の運用充実（人数枠拡充等） [4. 5]
3. 就学相談・幼児教育・子育て相談の推進 [4. 2]
4. 満3歳児対象の体験教室の検討（3年保育の前段階として） [3. 3]

就園前教室「ニコニコひろば」は、1クラス10人を基本にした少人数で開催でき、年30回に拡充し豊かな成果が得られた。親子での体操教室、インターナショナルタイム体験、太陽の子の広場参加等、充実した内容となった。在園している子ども達の経験していることを少しでも経験できる機会が増え、保育内容も連動して推進され、新年度に年中として入園した時の姿にどう連動していくか期待される。預かり保育「ひつじっこクラブ」は、異年齢の自由保育を主としており、利用園児は十二分に楽しみながら成長している。ただキャンセル待ちのまま利用できないケースも多く、利用者上限20名にならないか検討を開始したい。満3歳児体験教室の予備段階としてプレ保育を2回（12月にも実施）も検討する。

〔Ⅸ〕 園児募集を推進する広報活動の充実

1. HPリニューアル・入園案内パンフ新版の作成 [4. 1]
2. 見学会・説明会の充実 [3. 9]
3. 地域開催の子育てセミナー・出前ミニ幼稚園の実施 [4. 1]
4. 学期開始前（8月、3月）の園児追加募集の推進 [3. 8]
5. 地域の幼児教育に貢献する諸施策を推進 [3. 6]

HPの部分リニューアルがされ、より閲覧目的毎に見やすくなった。入園案内パンフ新版作成は出来ず。新年度は実現したい。毎回の見学会は本園の保育の特色をアピール出来、園舎見学も含めて充実させられた。入園に向けてのQ&A冊子も出来、より理解が深まった。ただ残念なことに見学会の花でもあった乗車可能なミニ電気機関車「ドリーム号」は、経年劣化により閉幕とした。

地域開催の子育てセミナー実施の2年目となり、札幌市内の計5区での開催実績となった。より細やかな地域貢献であり広報活動ともなる「出前ミニ幼稚園」の実施は実現しなかった。継続して周知していきたい。地域での開催となった「みらいっこのびのびランド」に全面協力し、幼児や子育て世代父母への豊かな触れ合いや啓発の場を作れた。

[X] 未来社会担う幼児育成に相応しい教育環境整備をプランニング

1. 教育目標実現のためのきめ細やかな協議検討と立案 [3. 8]
2. 幅広い他園の園舎・施設設備の見学を推進 [3. 9]
3. 学園新たな50年に相応しい教育環境構想を検討 [3. 7]

札私幼一斉研修等での地道な他園施設見学を推進し、全教員での共有を推進できた。保育の重点と園舎環境への研鑽を豊かにし、引き続き、公開保育や外部幼稚園への見学を積極的に実施していきたい。3学期に入り、教育目標実現への協議や今後の教育の重点再構築、園舎構想へのアプローチが再開された。創価学園の新たな50年に相応しい創価幼稚園未来図案の検討に当たっては、未来を拓く創価幼児教育のコンセプト、特化・強化項目を全教職員で練り上げ、「世界市民として未来社会に貢献する人格の形成を目指す」幼稚園の未来図を作成していきたい。

園内評価実施にあたって

- 1) 上記の各項目評定は5段階とし、記述評価と共に全教職員で実施した。
- 2) 自己評価にあたっては、3月に全保護者を対象としたアンケートを実施し、保育の重点や子育て支援等についてご意見を伺い、園内評価委員会にて、課題と今後への取り組みに反映させた。
- 3) 2017年5月に新入生保護者を対象としたアンケートを実施し、本園に対する入園前の期待や要望を掌握し、園内評価委員会にて、課題と今後への取り組みに反映させた。

◇ 学校関係者評価委員の皆様からの評価

特に指摘する事項もなく、適切であると認められる。3年保育、就園前教室・預かり保育、卒園生支援、広報活動の更なる充実への期待が寄せられた。

◇ 第三者評価委員の皆様からの評価

弁護士、幼児教育専攻大学教員、公立小学校管理職経験者、地域民生児童委員の皆様より、特に指摘する事項もなく、適切であると認められる。子ども達に寄り添う人間性豊かな幼児教育や時代に即応した教育、3年保育の一層の充実、子育て支援・幼小連携へ更なる期待が寄せられた。

◇ 財務状況

5月度評議員会・理事会により、適切であると認められる。